

---

# 学校のファンタジア

美衣 × 2

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

学校のファンタジア

### 【Nコード】

N3554D

### 【作者名】

美衣×2

### 【あらすじ】

本が好きでもないのに図書委員の三日月愛子。ある日、不思議な予感がしてから・・・どんどん学校のファンタジアにまきこまれていきます。

## #1：学校の帰り道

図書室が好きだ。

古い本の香りに包まれていたい。

そんな想いで図書委員になった

私、三日月 愛子。

「まったく・・・本が好きなのでもないのに」

後ろから不意打ちでコツンと叩かれる。

「・・・痛い」

後頭部を軽く撫でて、私は振り返った。

「図書室・・・少し怒った 先輩が 本を片手に 仁王立ち也」

思わず口から出てきた言葉。

・・・何故か、短歌？

如月先輩は深く溜息をついた。

「あのなあ・・・なんで怒ってるか、分かってるか？」

「・・・えつと・・・あ、もう外暗くなってますよ・・・あ、もうこんな時間？」

この前の誕生日に親に買ってもらったお気に入りの腕時計に目をやる。

「・・・三日月！図書委員なのに、こんな時間までグウグウと図書室で眠りこけるってどういうつもりだ？」

如月先輩の口調が・・・本当に怒ってる。

・・・怖い。

如月先輩って、図書委員になった理由がわからない。

怒りっぽく、喧嘩っ早い・・・そして私同様、本が好きなわけでもないのに。

私は無言でうつむくしかなかった。

「しかも寝惚けて・・・なんか短歌っぽい言ってるし！」  
変なやつ  
——そう言って如月先輩はプツと笑った。

良かった・・・笑うと可愛い感じで、とっつきやすい人なんだ。

「如月先輩、すいませんでした。私・・・いつの間にか寝てしまつて・・・」

「もういいよ。今後、委員の仕事はサボらないよう気をつけろよ。  
・・・じゃ、もうカギかけて帰るぞ！」

如月先輩と私は今日の当番だった。

すでに他の生徒の姿なく、本の整理も先輩がしてくれてあった。

つまり、先輩の言うとおり私は委員の仕事をサボったわけだ。

途端に私は申し訳ない気持ちになり、せめて・・・せめて鍵を返すことくらいは一人でやると言った。

「いいよ。俺、先輩だし。カギの取り扱い責任は俺の方にあるはずだ。」

それにさ・・・アレ、嫌じゃねえ？」

「アレ？」

「カギとか重要な物つて、キチンと返したつもりでも後になって『え、本当に返したかな？』って不安になってくるヤツ！」

「・・・ああ。強迫観念ですね！」

「・・・そうだっけ？脅迫？・・・なんか怖いだろ。だから俺が返しておく！」

「でも・・・。じゃ、二人で返しに行きましょう」

そして私達は鍵を返しに行ったついでに途中まで一緒に帰ることになった。

案外、如月先輩は話の面白い人で楽しい下校時間だった。  
あの時まで

他愛ない話をしていた時だった。

そう、数学教師の頭は鬘とか・・・英語教師は化粧が濃いかい  
う話題だった。

ざざざざざ

ざざざざざ・・・

暗い空を覆っていた何かが大きく動いた・・・気がした。

「風が強いな・・・」

先輩はそう言つて空を見上げた。  
つられて私も見上げる。

ざざざざざ

薄黒い雲の中で二つ光るものを見つけた。  
飛行機？

ギョロ

二つ光るものは大きな目だった。  
はるか上空から此方を見ていた。

声が・・・出ない。

「・・・三日月っ大丈夫か!？」  
如月先輩が大きく私を揺さぶる。

「先輩っ……空っ！」

私は上空の目を指差した  
しかし目などなかった。

「目の……錯覚？」

「三日月……お前……疲れてんだよ、きっと」

心配そうな先輩は、その日私を家まで送ってくれた。

それがはじまりだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3554d/>

---

学校のファンタジア

2010年11月22日22時57分発行